

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画等に基づく事業)

資料1-1

令和 8年 1月 9日

協議会名:防府市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域間幹線系統確保維持事業

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
防長交通(株)	防府駅前～新南陽駅～徳山駅前	関係自治体と連携して利用しやすいダイヤ改正を実施した。各イベントへの参加、バス乗り方教室の開催、学生フリー乗車券、小児運賃一律50円キャンペーン等PRに取り組み利用促進を図った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B ・収支率は計画値を下回ったが輸送量は計画値を上回り(輸送量+3.2人/日)、輸送量15人/日は維持された。(収支率△4.4%) B ・行政負担額については27円/人であり、計画目標値(現状維持)を上回っているが、輸送量は目標達成しており負担の増加は抑えられている。	引き続き、バス利用促進に繋がるよう、ダイヤ改正等を行い、関係市町と連携して利用しやすいバスを目指していく。 また、各イベントへの参加、バス乗り方教室の開催、学生フリー乗車券、小児運賃一律50円キャンペーン等PRを継続的に努め、利用促進を図る。
	堀～中山～防府駅前	利用者の利便性を向上させるため、バスロケーションシステム活用について周知を図った。交通ICカードシステムのPRなどを積極的に行い、利用促進に努めた。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B ・収支率は計画値を下回ったが輸送量は計画値を上回り(輸送量+1.7人/日)、輸送量15人/日は維持された。(収支率△14.4%) B ・行政負担額については150円/人であり、計画目標値(現状維持)を上回っているが、輸送量は目標達成しており負担の増加は抑えられている。	バスロケーションシステム、交通ICカードシステムを幅広く周知し、新規利用者の獲得に努める。
	堀～和字～防府駅前		A 計画通り事業は適切に実施された。	C ・計画に位置付けられた目標を達成できず、輸送量は目標12.6人/日に對し10.7人であった。(収支率△33.0%) C ・行政負担額については364円/人であり、計画目標値(現状維持)を達成できなかった。	
JRバス中国(株)	D74 山口駅～昭和町・ゆめタウン山口～防府駅		A 計画どおり事業は適切に実施された。	B ・事業が計画に位置付けられた収支改善目標率45.1%に対し、実績は44.1%と達成できなかつたが、輸送量15人/日は維持された。 B ・行政負担額については72円/人であり、計画目標値(現状維持)を達成できている。	
	D77 防府駅～ゆめタウン山口・県庁・湯田温泉通～中尾口	市が発行する時刻表に交通系ICカードシステム(ICOCA)利用方法を掲出し、リーフレットやチラシ配布等を実施し、学期休み中のこども50円バス実施の周知を行うことでバスの利用促進に繋がった。その他、イベント開催時の迂回情報を当社HPに掲載することで利便性の向上を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B ・事業が計画に位置付けられた収支改善目標率43.8%に対し、実績は39.9%と達成できなかつたが、輸送量15人/日は維持された。 B ・行政負担額については152円/人であり、計画目標値(現状維持)を上回っているが、輸送量は目標達成しており負担の増加は抑えられている。	引き続き関係行政など地域との連携を図り、バスの乗り方や運行情報提供を行い、公共交通への転嫁を促すことで、恒常的なバス利用に繋げる。
	D109 防府駅～ゆめタウン山口・県庁・湯田温泉通～山口大学		A 計画どおり事業は適切に実施された。	B ・事業が計画に位置付けられた収支改善目標率56.5%に対し、実績は50.7%と達成できなかつたが、輸送量15人/日は維持された。 B ・行政負担額については0円であり、計画目標値(現状維持)を達成できている。	

各事業者が利用者数・改善収支率の実績数値に基づき、事業評価を実施。その後協議会において事業目標の目標値を踏まえて評価を実施した。

事業実施と地域公共交通計画等との関連について

令和 8年 1月 9日

協議会名:	防府市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域間幹線系統確保維持事業
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>防府市は山口県のほぼ中央に位置し、東は周南市、北から西にかけては山口市と接している。人口分布と高齢化の状況をみると、防府駅を中心とした中央部に人口が集中し、周辺部は中央部に比べ人口が少なく、高齢化率が高くなっている。</p> <p>本市の公共交通網は、鉄道、高速バス、路線バス、乗合タクシー、タクシー、離島航路で構成されており、そのうち路線バスについては、防長交通株式会社とJRバス中国株式会社により運行されている。</p> <p>しかし、人口減少や少子高齢化、自家用車の普及により公共交通の利用者は伸び悩んでおり、また昨今の物価高騰等、厳しい経営状況に直面するバス事業者において、事業の継続に向けた取り組みは喫緊の課題となっている。ただ、学生、高齢者や障害者などのマイカーを持たない、あるいは、利用することができない人々にとっては、社会生活をおくるにあたり、安全・安心・快適な交通手段の確保・維持は極めて重要である。</p> <p>今回申請する6系統は、防府と近隣の山口市・周南市を連絡し、通勤や通学、買い物や通院など、先述した公共交通を必要とする人々の日常生活での広域移動に必要不可欠な路線となっているが、自治体や交通事業者の努力のみでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持事業を活用し、運行を維持することが必要である。</p>